



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 20 年 (2008)

奉祝 天皇陛下御即位 20 年
平成 20 年 大宮八幡祭り(秋の大祭)号 【82 号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

蘇えれ！日本……………	2 頁
大宮八幡祭り案内……………	3 頁
杜の話題……………	4 頁
大宮の杜 秋も深まり……………	7 頁
七五三詣ご案内……………	8 頁
初宮詣芳名……………	9 頁



第八回 十五夜の神遊び (九月十五日)

蘇えれ！日本

室司 鎌日紀彦

このところ我が国の世情は、原油や食料等の物価の高騰と不景気が不安感を増長して閉塞感の漂う、全く先行き不透明な状況にあります。

政治は国会で機能しているのか、何がどの様に議論されていくのか解らないような状況が実体で、国益や国民生活はど吹く風、目先の党利党略が先行する与野党対決の姿勢ばかりが目につきます。この程、福田改造内閣が発足したものの解散がちらつき、はたして不安感が解消するのでしょうか、明るい変革を期待したいものです。行政も相次ぐ不祥事が続発し、公僕たる公務員の信用も失墜し、機能不全状態の感が致します。

又、このところ毎年三万人を超える自殺者がいると云います。親が吾が児を虐待し殺害したり、子が親を殺すという丸で動物以下の実態は、将に家庭の崩壊であります。それに白昼公然と無差別殺傷事件も続発しております。

見るにつけ社会秩序は乱れ、倫理道義は廃頓して地に墮ち、世情不安が増すばかりでございます。恰も羅針盤の壊れた船（日本丸）が大海を漂流している様に閉塞し停滞しております。

しかし乍ら、昔難破船の船乗りは羅針盤が壊れても、動かざる不動の星、北極星を目印に航海したと聞いております。この北極星こそは不動の日本、つまり今こそ原点に立ち返り、日本



の伝統的精神文化を見つめ直し再確認をして、日本人としてのアイデンティティをしつかりと確立していくことが必要な時に来ていると思います。そこにこそ現下の八方ふさがりの閉塞感から抜け出せるヒントがあると思っております。嘗て我が国は精神文化も高く最も安心して暮らせる国と云われた時代もあったのですから...

生かされている『いのち』

戦後一貫した人権教育に依って自己中心的な考え方が当然の様な風潮が大勢を占める昨今、例えば自殺肯定論者は、自分の命だから自分がどう扱っても勝手であると云います。自分自身の命まで処分可能な「モノ」としか理解していません。価値観の多様化とは云え、全く間違った発想であります。元来自分勝手に処分できる「モノ」と云えば、買ってきた「モノ」、所有者のない「モノ」、自分で造った「モノ」、自分の命はそのどれにも当てはまりません。

サムシンググレートで有名な遺伝子工学者の村上先生もかつて作り上げて来た最高傑作で、三十七億年もかけて作り上げて来た大生命（僕）がこの世に生まれて来たこと自体、途方もなく奇蹟的なことであり、生きていることだけでも有難度く素晴らしいことであり、自殺も他殺も絶対にしてはいけません。この世に生かされていることに感謝しよう。」と含蓄ある話をされています。

私も、何十億年の生命のDNAを受け継いで親から生まれたいのち（身体）、即ち神々より受け継ぎ戴いた大切ないのちなのであり、つまり命があつて初めて自分があるのであり、自分があつて命があるのではないのです。生命は自分の「モノ」ではないと云う、謂わば当たり前の道理が理解不能に陥っているのが今の風潮の様であります。よく考え直して、生かされていることに感謝しようではありませんか。

忘れていた『家庭の秩序』

家庭の崩壊から立ち直るヒントとしては、ケースバイケースで一長一短色々あると思いますが、その一つとして、妻は夫を大切に夫に従うと云う、嘗ての家庭の秩序を取り戻すことがあります。この為には、夫婦は子供の見ているところでは絶対に夫婦喧嘩をしてはいけません。むしろ母親（妻）は、常に父親（夫）をたて、父親を敬う心を培い子育てを積極的に行うことであります。亦父親も家庭の中心的存在としての誇りと自信を以て尊厳を保持し続け、精神的に畏られる様な存在（父親の復活）になる努力、謂ゆる「親学」を身につけねばなりません。そうして、家居に神棚を設けて毎朝神前に手を合わせ幸せを祈り、食前食後の感謝をする家庭生活をしていると、自ずと家の中に秩序が出来て、そこに安心して明るく楽しい居心地の良い家庭環境が出来上がると思えます。

神々のお恵みや祖先の恩に感謝して心から手を合わせ、生かされていることを実感し、その御心に沿う様に努力していくことが大切なのです。家を斉え治めることは、家庭の祭祀をきちんと行っていくことであると思っております。家の秩序が保たれ家族が平安に過ごせると、家庭が円満になり家族間の愛情も深まります。夫婦愛や兄弟（姉妹）愛は、やがて隣人愛や郷土愛も芽生えて来て、住みよい地域づくり町づくりにも繋がって行くことと思えます。

今年天皇陛下御即位二十年を奉祝して大宮八幡祭りが斎行されます。特に御神輿八基の合同宮入りは城西随一と云われ、鎮守の杜の聖なる空間で、繰り広げられる御神輿振りは、エネルギーッシュで熱気が溢れ、陪観者俱々興奮のつぼと化します。そうして神々と一体であることが実感出来る感動の一ときでもあります。お祭りは、町全体が精神的に高められ、心のバランスも良くなり町や地域の活性化にも繋がっていくものと確信しております。

八幡大神様の広大無辺なご神恩に感謝して、大宮八幡祭りを盛大に斎行させて頂き度く思っておりますので、多くの氏子・崇敬者のご参詣を心からお待ち申し上げております。

厳かに例大祭齋行



小笠原流宗家ご奉仕による弓の神事三三九手挟式や13日の園児民謡踊り、杉並太鼓、方南エイサー踊りなど期間中、様々な神賑行事が奉納されます。また9月9日より16日まで清涼殿ロビーでは、平安の雅び「菊被綿」飾りが再現展示されます。



菊被綿再現

新秋、実りの季節を迎え、天皇陛下御即位二十年を奉祝して恒例の大宮八幡祭り(秋の大祭)が9月15日を中心に執り行われます。まづ13日はゆかた姿の参拝者で賑わう夕刻6時、宵宮祭を齋行。翌14日は午前10時より氏子奉幣祭が執り行われ、大宮・方南・和田・松ノ木の四地区氏子より寄せられる真心こもるご浄財が氏子幣として大前に奉獻されます。

またこの日氏子各地区神輿の社参が午前中より次々に行われ、午後6時よりは第二十三回神輿合同宮入りが行われ、氏子四地区八基の神輿が神門内大前に練り込み、圧巻の神輿振り熱気と興奮のつぼと化します。そして翌15日は神社本庁より献幣使参向のもと午前10時より例大祭を齋行。神々の恵み五穀の豊饒に感謝し皇室国家の安泰と氏子崇敬者各位の隆昌発展を祈念致します。

奉祝 天皇陛下御即位二十年

大宮八幡祭り(秋の大祭)

氏子奉幣祭・例大祭

第二十三回 神輿合同宮入り



熱気にあふれる、神輿合同宮入り

第八回十五夜の神遊び

『月の音コンサート』

合同宮入りの熱気もまだ冷めやらぬ例大祭当日の9月15日(月・祝)の望月に第八回「十五夜の神遊び」を齋行致します。「神遊び」とは神慰め、神祭りのこと。鳴虫のすだく緑豊かな神苑で秋の名月を愛でつつ、一千基を越える竹燈に浄火が点され、神楽舞や雅楽の奉奏を神々と俱々にご陪観頂く神事です。先ず献灯神事が行われ、篝火や境内の竹燈籠に宮司以下神職と参列の皆様が次々と点灯し、社殿にて仲秋祭を齋行。続いて神楽殿に舞台を移し雅楽・神楽舞の奉奏、そして二胡(芳晴氏)とピアノ(シモシュ氏)による「月の音コンサート」が催されます。

ご自由な陪観できますので、お誘い合せ頂き、多くのご陪観の皆様のご参詣をお待ち致しております。



雅楽・神楽舞の奉奏

大宮八幡祭り(秋の大祭) 祭事

神輿神霊入れ神事 9月12日

若宮八幡神社例祭 9月12日

白幡宮例祭 9月12日

各神幸所清祓・宮司巡拝 9月13日

宵宮祭 9月13日

氏子奉幣祭(奉祝当日祭) 9月14日

第二十三回神輿合同宮入り 9月14日

例大祭(献幣使参向) 9月15日

十五夜の神遊び(仲秋祭) 9月15日

神輿神霊返し神事 9月16日

後朝祭(直会乃儀) 9月16日

神賑行事

第10回菊被綿飾り 9月9日〜16日

奉納書画行燈 9月9日〜23日

献燈提灯 9月9日〜23日

弓道奉納射会 9月7日

大宮幼稚園園児民謡踊り 9月13日

方南エイサー踊り 9月13日

杉並太鼓 9月13日

高井戸囃子 9月14日

小笠原流三三九手挟式 9月14日

町内神輿渡御宮入り(昼間) 9月14日

スカウトバザー 9月14日・15日

スカウト神輿宮入り 9月15日

野点茶会 9月15日

舞楽(俊成雅楽会) 9月15日

盆哉展示会 9月13日・14日

第30回小笠原流献華展 9月13日〜15日

露店 9月13日〜15日

杜の話題

春の大祭(わかば祭) 斎行

天皇陛下御即位二十年を奉祝して当宮春の大祭(わかば祭り)が5月3日より5日の間、執り行われ、境内は若葉青葉を染む多くの参拝者で賑わいました。

大祭に先立ち昭和の日の4月29日、昨年に続き昭和天皇のご聖徳をお讃え申し上げ、昭和祭を斎行。次いで3日午後には春の大祭第一日ノ儀子供(稚児健康祈願祭)と稚児行列が行われ、特に第30回を迎えた今年の稚児行列には神輿が渡御、宮司以下祭員が行列に供奉して、過去最高の71人のお稚児さんが参加しました。



続く4日は午前10時より当宮敬神婦人会りんどう会の会員や当宮奉式者が参列して春の大祭第二日ノ儀を斎行、祭典後、神楽殿では第8回「若葉 in おみや」が催され、箏カーティス・パターソン、尺八ブルー・ヒューバナーの両氏が奉納演奏を行いました。次いで第8回奉式者の集いが清涼殿で催されました。

また午後2時よりは当宮みどりの会主催の植樹祭(献木式)を執行。祭典後は参列者の皆様に苗木が授与されました。



最終日の5日は午前10時より春の大祭当日祭(尚武祭)が斎行され、皇室国家の安泰、氏子崇敬者各位の繁栄が祈念されました。このほか期間中杉並太鼓、杉並エイサーの演奏や大宮八幡植木市なども催され、境内は終日賑わいました。

恵俊彰さんご参拝

テレビ・ラジオで有名なお笑いタレントの恵俊彰さんが春の大祭期間中の5月3日午前、ご長女の初宮参りで当宮を参拝されました。恵さんはTBSテレビの「2時っチャオ!」を始め幅広くメディアに登場、多くの視聴者に親しまれています。この日はご一家お揃いのご参拝でお子様のご成長を祈念しておられました。



第五回大宮八幡宮の杜薪能

「杉並で能楽を楽しむ会(会長田木千城夫)」の主催に依り、第五回「大宮八幡宮の杜薪能」が去る5月17日、当宮神域で奉納されました。今年には区教育委員会の協力で区内の小中学生も陪観しました。



夕刻、和琴が奏でられる中、火鑽神事を斎行。火鑽により熾こされたご神火により火入れが行われ、揺らめく炎に照らされ、野村四郎師ら観世流演者により「羽衣」「鶴飼」の能二番、狂言「口真似」の一番が演ぜられました。この世のものではない天人の崇高な美しさを描く「羽衣」と人間の業の悲しさを表す「鶴飼」。その幽玄の世界は陪観者を魅了しました。

成宗白山神社九百年大祭

当宮宮司の兼務神社である成田東二丁目鎮座の成宗白山神社では今年が御鎮座九百年の佳年にあたることから去る5月18日午前、献幣使参向のもと九百年記念大祭を斎行しました。同社ではかねてより九百年記念事業として御社殿御屋根銅板葺替や社殿内外壁の塗替など境内整備事業を推進、昨春秋の

本殿遷座祭を経て今度の記念大祭を迎えたもの。

当日は責任役員総代ら百五十名が参列して記念大祭を斎行。鎌田宮司の祝詞奏上のおと、献幣使中田都神社庁副庁長が神社本庁よりの幣帛を献じ、祭詞を奏上しました。祭典後の直会では参列の石原伸晃衆議院議員等から祝辞が寄せられ、また装い新たになった神域では江戸消防記念会七番組による梯子乗りなども披露され、御鎮座九百年を奉祝しました。



第九回裏千家献茶式

平成11年に「天皇陛下御即位十年」を奉祝し、杉並区内では初めて献茶式が執り行われてより、今年で9回を数えます。

5月24日午前10時より第九回裏千家献茶式が茶道裏千家今日庵鵬雲斎千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕のもと、昨年より始められた新たな立札の作法により、厳かにご神前に濃茶と薄茶が献じられました。



また併せて、裏千家淡交会東京第六西支部の担当主催による奉賛添釜茶会が開かれ、濃茶席・薄茶席・立礼席の三席とも大宮匠を囲み賑々しく催されました。尚、当宮付属の大宮幼稚園においても、献茶式に伴い恒例の幼稚園茶席が開かれ、園児達は緊張した面持ちながら日頃の練習の成果を披露致しました。

大宮八幡塾 親子茶道教室

献茶式に際し園児茶席のお稽古をつけて頂いている裏千家淡交会の先生方にご指導頂き、親子で日本の伝統文化に触れてみようという試みのもと、6月25日より第一・第三水曜日に茶室神泉亭において幼稚園園児を中心に親子茶道教室を開催しております。



第二十九回 杉並大宮さつき展

杉並区後援による第29回 杉並大宮さつき展が5月24日より6月8日までの間、境内特別展示場で催されました。このさつき展は「杉並大宮さつきの会」主催によるもので、例年氏子崇敬者の会員の皆様により多くのさつきが出品され、今年も丹精の込められた数々の作品が五

月晴れの中、妍を競い人々の目を惹きませました。

水無月の大祓神事齋行

恒例の水無月夏越の大祓神事は6月30日夕、齋行され、参列員は今年前半の罪穢を祓ひ清め、残る半年の果報に思いを馳せておられました。午後4時、神門前広場の茅の輪前にてまづ大祓詞を宣読、形代で体を撫で息を吹きかけ無病息災を祈る自祓の儀のあと天と地が祓われましました。ついで茅の輪神事。参列員は左右左と神門前の茅の輪を三度潜り、社殿に進みました。



大祓神事に引き続き社殿では、大祓並に大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭を齋行。当宮の教化活動として行われている大宮八幡塾の書写会で、6月21日より29日の9日間、りんどう会の会員を含む氏子崇敬者ら45名の方々によつて浄書された大祓詞が大前に献ぜられました。

第十回 「乞巧奠」飾り

平成の七夕乞巧奠飾りが去る7月1日より15日までの間、清涼殿口ビにて展示公開されました。天皇陛下御即位十年を奉祝して平成11年全国に先駆けて当宮で再現、本年

第10回目を迎えました。乞巧奠飾りは中国の牽牛織女の星祭りとかわが国の棚機つ女伝説が結びつき平安時代より宮中を中心として行われた七夕行事。期間中、乞巧奠飾りには雅楽器・筆硯・五色布などが供えられ、回りを囲う注連縄には梶の葉や五色の紙垂が下げられ、また四隅の笹竹には平成の七夕として梶の葉や色とりどりの七夕人形が飾られました。



7日夕刻には社殿にて「七夕の神遊び（技芸上達祈願祭）」を齋行。続いて参列者は神門前に進み、梶の葉と七夕人形に五色の吹き流しや五色の布を垂した「平成の七夕・乞巧飾り」をくぐる乞巧潜り神事が行われました。また6日と13日の日曜夕刻には「雅楽の夕べ」が乞巧奠飾り前で開催され、8日の朝まで神門前には大きな笹竹飾りも立てられ、参拝者は思い思いの願いを短冊に書いて付けておられました。なお乞巧奠飾りが7月4日午後、テレビ東京の人気番組「レディス4」でも紹介されました。

乞巧守りを奉製

平成の七夕祭りに因み、参拝者各位の学業技芸の上達を祈願して「乞巧守り」をこのほど奉製致しました。この乞巧守りは笹竹に梶の葉と紅白

の七夕人形が付けられた御守りで、7月1日朔旦祭後より天神祭の25日まで社頭にてお頒ち致しました。

第八回 納涼大宮天神祭り

夏の風物詩「第8回 納涼大宮天神祭り」が今年も7月25日に行われました。皆様よりご奉納を頂いた三〇〇点もの書画の行燈に、当日夕刻より灯りが入れられ幻想的な雰囲気の中、学業成就を祈願する「大宮天神祭」の祭典が午後5時半より齋行されました。祭典に引き続き午後6時半より「時間をはずした日の祭事・杜のひびき in おみや」として太鼓集団「巴伶」代表響道宴氏等による奉納演奏が行われ、境内に轟き巨る和太鼓の音の世界のひとつきを多くのご陪観の方々にご感応頂きました。その後幼児等を中心にミニ花火の集いも行われました。



形代流し 神事齋行

恒例の大祓形代流し旅行が去る7月27・28日の両日行われ、33名のご参加の皆様と共に遠江・三河路を訪

大宮八幡の杜 秋も深まり

第十回 菊被綿飾りさくのきせわたかざり

平安時代に行われていた、重陽の節句の宮中行事「菊被綿」を天皇陛下御即位二十年を奉祝して、本年も大宮八幡祭りに併せ第十回菊被綿飾りを9月9日より16日まで展示公開致します。



第30回 杉並大宮菊花展

杉並区内外在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた数々の作品が出品される杉並大宮菊花展が10月25日から11月25日までの間開催されます。今年には昭和54年に開催されてより30回を迎える記念すべき年となりました。近年は、近隣の秋の景観の自然美を小菊で再現する「盆景」が多数出品されており、また、当宮菊の会々



員に依ります7・5・3文字菊の奉納出展は、当展のみで珍しく素晴らしいもの。他にも色とりどりの花々が、社頭を華やかに賑わせております。

新嘗祭

勤労感謝の日の11月23日午前10時より「新嘗祭」が斎行されます。この祭典は五穀豊穡を祈る春の祈年祭と一対の祭典で、新穀を神前に供え秋の収穫を感謝する祭典です。宮中を始め、全国津々浦々の神社でも行われております。当宮でも例年、幼稚園の稲田で園児達が丹誠込めて育て収穫された稲穂をはじめ、新穀や御酒・野菜果物等が供えられ、また事業の繁栄を願う崇敬企業より多数多くのお供え物がご神前に献納されます。



第十八回 杉並花笠祭り

18回目を迎える初冬の風物詩「杉並花笠祭り」が12月13日(土)に開催されます。当日は、杉並花笠祭開催奉告祭を斎行の後、御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では山形

りんどう会研修旅行

来る11月6日(木)、当宮敬神婦人会(りんどう会)の研修旅行は菊花の薫る秋の鎌倉を散策致します。鶴岡八幡宮参拝や資生堂の鎌倉工場の見学などが計画されていますので、奮ってご参加下さい。

秋の大祭後の主な祭典・行事

- 10月25日 第30回杉並大宮菊花展
- 11月25日 月次祭並七五三祝祭
- 11月15日 新嘗祭
- 11月23日 第18回杉並花笠祭り
- 12月13日 天長祭
- 12月23日 大祓(年越大祓)
- 12月31日 除夜祭

毎月・お朔日参りを致しましょう

毎月1日 朔旦祭(どなたでも自由に) 毎月15日 月次祭(ご参列出来ませう) 毎月最終の土曜日又は日曜日 大宮八幡宮フリーマーケット 杉能会ハザー

戌の日詣りは 子育八幡さまで

安産祈願のご祈禱を!

安産祈願のご参拝増加

少子化が進む中にも無事に我が子をお授け頂くことの親の願いは切なるもの。弥高き子育て八幡さまのご神徳がいよいよ宣揚されている当宮に参拝され、安産のご祈願を受けられる方が増えております。とくに戌の日には境内はご夫婦連れの参拝者で賑わいます。

ご祈願受け方には安産腰帯、産田帯を授与しております 子授祈願・初宮詣も随時お受けしております

戌の日早見表

(平成20年9月〜平成21年1月)

9月	7日(日)	19日(金)
10月	1日(水)	25日(土)
11月	6日(木)	30日(日)
12月	12日(金)	24日(水)
1月	5日(月)	17日(土)
		29日(木)

は大安の日です



ジブリ美術館遠足

先日、幼稚園年中組の子供たちとジブリ美術館に行ってきました。ジブリ美術館の写真や「となりのトトロ」の絵本を見ながら、お待ちにしていた子供たち。当日、友達同士で電車やバスに乗ることが初めての子供たちは、窓の外を見ながらドキドキした表情で乗っていました。バス停を降りて歩いてゆくと、大きなトトロの受付があり、みんなのお出迎えをしてくれました。子供たちは実際に間近で見るとトトロの大きさに大興奮していました。そして、いよいよ美術館の中に入り上を見上げると、太陽の光がステンドグラスの窓を通り、七色に輝き館内に広がっています。他にも、順路の途中に宝箱が置いてあったり、ドアを開くと鏡があったり、本の間に人形が座っているなど、子供たちの興味を引くものばかりで、色々な物を発見する度に小声で「先生！見て見て！！」と嬉しそうに教えてくれました。さらに歩いてゆくと大きなおこバ스가！実際に乗ったりして遊ぶことが出来るようになっていますが、大人は付き添いでも中へ入ってはいけません。



という約束があり、子供だけの世界でのびのびと遊んでいました。館内には映画も上映されており、「メイとこねこバス」という映画では、子供たちが驚いて立ち上がり、トトロの登場に声を上げて喜んで、夢中になつて見入っていました。

お昼は、美術館の見える井の頭公園内でみんなでお弁当を食べましたが、ジブリ美術館の周辺は自然に溢れていて、昼食後は、白話草指輪を作ったり草相撲をして遊びました。また、その場でも宮崎駿さんの絵の中に入っているように、子供たちが互いに想像力を膨らませ、一緒に見たり触れて感動したこの日は、私もまっさらな夢の中にもう一つの素敵な思い出となりました。
教諭 池添百香子

うとめ七五三詣



七五三詣は男児三歳と五歳、女児三歳と七歳の祝いと三歳は髪置き、五歳は袴着、七歳は帯解きとも呼ばれてきました。髪置きはもう赤ちゃんではないという意味から剃っていた髪を伸ばし始めます。袴着は男児が初めて袴を着ける儀式、帯解き（紐解き）は女児が付け紐で着物を結んでいたのを帯に換える儀式です。

また、古来より11月15日には氏神様に参拝して、お子様の健康と成長を祈願致します。

七五三レンタルプランご予約会
ご予約会日：7月5日（土）より毎日開催
開催時間：朝10時～夕方5時まで

七五三年齢表			
七歳	女児	平成 14 年生	
五歳	男児	平成 16 年生	
三歳	男・女児	平成 18 年生	

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

十三詣・立志詣のご案内

13歳は丁度女兒が女性になる年頃、即ち入前の人間として社会の員に加わる大事な歳として、この歳に氏神様にお参りして大人になることへの自覚と決意を新たにするのが十三詣です。また論語に「吾十有五にして學に志す」とありますが、古来男児の元服も15歳頃になされており、現在では「志を立て目標を成し遂げる」と大神様に奉告する立志詣として行われています。当社でも御祈願祭を随時受け付けておりますので、人生の意義ある節目としてお参り下さい。

結婚式挙式者芳名(敬称略)

- (平成20年4月5日) 堀田雅章・理江
シワアルム 坪田和之・規予
ツギモツドクモ 妻孥 川上和之・規予
勝田明・淳子 小野庄一・鼎代
藤田朋央・知穂 長翁政良・環美
廣瀬大・洋子 長内康治・静枝
相川敬・容子 三間淳吉・優子
坂井薫之・照弓 松島章夫・千代美
稲川信生・ポリーヌ 畑山直樹・志歩
左右洋史・澄子

「月見の宴」のご案内

清涼殿では9月15日の「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」を同日夕刻催します。名月を愛でながら、古式ゆかしい雅楽の調べや二胡・ピアノの演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」のひとつときをお過ごし頂きますようご案内申し上げます。

【月見御膳】◎御神酒付
お人様 4,800円(税込)
『月の音コンサート陪観指定席』含む
限定 100名



定員に各次第締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天でも「十五夜の神遊び」の音コンサートは行われず
◎お土産用大宮八幡堂菓「竹ひめ」(当日の開催まで)
お申し込み・お問い合わせは
大宮八幡宮 清涼殿まで
〇三(三三三二) 七五二五

初宮詣芳名

(平成20年3月24日、平成20年7月21日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

石松眺太郎 雨平怜 芹澤咲良 上條壯志
 比嘉乃々葉 大高千世 富田風 峯和望
 神谷咲里 石ヶ森優花 鈴木将大 石川菜月
 東ヶ崎朝稔 田村遼花 空閑那奈 林原七海
 保坂芙蓉 高橋円佳 柏田真希 園部滉太
 関愛美 吉村小優 齋藤勇介 中根楓杜
 関愛美 小出初香 根岸愛理 高宮恋
 葉梨雅之 石黒紗衣 横堀花咲音 武久奈未
 西澤ひなた 木村悠那 高岸誠美 浅川賢兜
 西澤あかり 田口皓章 横倉千尋 確井想真
 藤井宙宇 大友一 五味恵理佳 藤田諒介
 藤井海斗 多田虎羅 阿部佑南 海老名花穂
 大村惇人 野村真利 土屋樹里 坂元汰楓
 高田悠太 上野宗太 横渡文里 後田玲華
 大西悠太 高尾映輝 越守健 秋元祐輝
 高木寛人 寺内榛人 岡橋陸 大島麦太
 白井勝斗 山本賢誠 西尾美輝 高宮真
 市川豊翔 大澤篤士 青木結陸 伊地知和香
 船津周太郎 松野祐太 松口卓矢 伊藤瑠菜
 平柳碧依 加藤実右 河野帆香 大宮響太
 山崎碧依 種茂創太 河野帆香 宮澤忠也
 山口康輔 植竹京香 瀬川美緒 鈴木亜門
 仁司七聖 遠藤快宗 佐藤由紀那 鈴木亜伶
 安藤悠希 近藤愛理 今井幹太郎 緒方みずき
 割田健介 藤井結音 清水奏多 荻原大翔
 村上明日香 浅野祐晟 浅賀望大 前田慧
 松生明里咲 宮本知真 横田もも 伊藤暁輝
 今川快斗 工藤崇太郎 田村琴葉 立松将真
 吉濱秀隆 鎌田一諒 佐倉由馬 辻孝太郎
 田中咲耶 上田実沙季 吉田弥依 室越凜花
 若狭駿人 古川颯大 柴崎優季 鈴木萌々華
 渡邊ののか 西村珈乃 伊達若奈 竹重明香
 武藤悠真 春日咲音 北森果歩 武田隆
 前田浩 小井陽菜 三浦愛心 窪田啓士
 島田浩太郎 久平江理 國松佳伶 伊野唯唯奈
 中富さやか 米澤清貴 久保田徳成 上藤蓮
 山田直央 安藤江里菜 池橋奏和 成田智哉
 宮下功士 竹内唯 羽石遼太郎 辻陽幸

林実優 野澤麻央 園田成悟 大徳光
 亜雁深玖 佐藤寿音 伊藤作太郎 鎌田麻里
 小田智 鈴木小梅 川原場日向 白石芙蓉
 藤崎要 田部主真 多田晃純 久能木麻友
 兒玉怜 下斗米津音 相原志保 加藤明都
 寺門千晴 植木陽奈子 小山瑞葵 坂上峻太郎 石原星波
 植木陽奈子 西山遥大 河西真直 眞東美桜 大原大空
 佐山遥大 浅尾真汎 堀田和暉 齊藤匠汰
 大野詩歩 花房京香 堀内ア二乃 小橋花音
 齊藤大 菊武洗仁 佐藤麗心 石毛日菜子
 細田菜央 伊藤奈子 石川梨馨 鈴木蒼人
 橋本沙樹 前村春樹 田中杏奈 岡田かれん
 小岩原悠人 西村唯 查掛加直 加藤大喜
 河野惺 高山陸 根岸由佳 料理あさひ
 小林楓 戸倉結衣 林環希 梅林拓生
 山本法史 滝澤唯 長尾篤人 梅林大介
 一杉南斗 高橋杏奈 河村祐季 舟橋咲穂
 鶴田美緒 安達咲句 高橋ひなた 文視音
 萩原慎太郎 渡邊恭介 鈴木さくら 中島弥生
 江川稟香 塚田香菜穂 杉本匡佑 嶋丈さら
 佐藤利音 瀬出井恋美 山本礼也 加藤祐樹
 田嶋大智 原優太 新井寛奈子 神林大翔
 水尾心花 高橋由貴奈 阪井七帆 三村あずみ 濱中音
 塩崎葵 阪井七帆 三村あずみ 櫻井千愛
 野中一穂 横倉里音 和田純佳 中岡杏那
 藤田莉央 押尾一希 東田中寛子 鳴原水伶
 平野温之 正野敬一郎 北原希美 宮下和
 加藤優稀 鈴木寛乃 宮崎結依子 中村桜子
 塚原淑織 乃野淳ひと 吉岡洋 中村桜子
 塚原文直 江國伸哉 清水美聖 寛司煌一郎
 海渡優芽 岸田弦 出口陽真 坂井小梅
 佐藤杏子 水塚琉生 石橋諒大 窪田康生
 吉野優 大久保怜和 山崎俊哉 光成匡貴
 黒瀧まみ 梅本鷹晴 大岡明日斗 光成文貴
 有賀煌太 堀明香里 渡部ちはる 井田琉菜
 有賀風介 金子桜来 兼頭賢多 本出瑠菜
 竹原優 岸萌々子 田村拓己 小澤陽斗
 濱中美玖 森本花瑠愛 地引愛奈 藤井野乃
 上山美梨 池田菜那子 石原椿 毛利清花
 家高周平 館村遼太 菅沼佳菜子 生川智久
 吉野ひなた 高木俊輔 新出さら 青山さくら
 田中句 須古奏 岩瀬美里 中村心
 小野寺粹 大村秋斗 岡野美桜 前島優典
 清水彩来 恵愛結 碓田創司 山崎權成

村瀬さくら 中島桜 松本健 道辻美天
 加藤愛梨 合屋祐海 西海晴音 伊東咲利
 清水勇翔 得地碧翔 好士真央 小林龍空
 土屋奈桜 田中悠貴 仙波晴弥 小山美桜
 青山広希 村上純仁 山下翔 川村晴大
 西島瑞貴 竹内春絆 福谷豪大 五十嵐悠人
 有川雅晃 菊間花恵 中條葵 飯島理乃
 長野智朗 深野裕貴 平沢萌碧 深川真結子
 吉田神 三木琴音 鶴岡秀磨 内田啓太
 高島優陽 森下瑚子 近藤輝空 井上陽人
 青木玲奈 伊藤蒼大 平井梨央 篠崎恵音
 近藤律 サラ友里愛 進藤高希 岡部聖史 手塚みな
 高橋英明 古川桃々華 横尾海聖 堀木裕太
 塩津知哉 金子匡 黒田幸太郎 堀木陽平
 岩下晴矢 高田麗瑛 東谷朱夏 関はるか
 加藤空 早狩元太郎 葉山玲 櫻井恒太
 上村勇人 阿出川和暖 山村直輝 櫻井結太
 竹田晶 渡邊みのり 佐藤修一郎 比嘉心乃
 金優那 福井康将 合田悠十 岡野光介
 田口愛菜 永富祥子 原科麗華 戸田遥太
 池田新 小崎大輔 花島麗 佐藤己大
 花崎奏音 宮崎大樹 岡本琉輝 鈴木結菜
 長澤啓太 鈴木蒼以 大下内麻奈 相澤奏
 長谷部瑠菜 島田肇希 長澤蒼太 細川大樹
 樽本一輝 木原豪茂 野中義士 本名美通
 大嶋俐香 立川凜空 関谷優志 前田行成
 伊藤紅美 久加天裕保 岩田健太郎 平元柁
 根岸俊一 濱田光平 守屋千咲 上原子いぶき
 玉嶋怜奈 中澤光弘 松田一志 赤羽里咲
 廣松珠緒 岩田唯佳 安藤三咲 川俣純
 清水陽菜 杉田雅姫 山本武尊 川俣純
 雑賀蓮 今井想来 長沢陸翔 保泉吉良
 早瀬真琴 加藤健輔 音喜多美咲 高橋咲也
 高井聡佑 近江蒼太 天中辰樹 増田銀侍
 藤井美菜子 山口誉菜 山野暎 中村結衣
 植野せいら 千葉翔太 二宮遊 黒岩楓衣
 須藤礼 鷹見隆一郎 岡根和 栗栖貴貴繁
 小池梨音 青木結奏 吉田未來 内堀成晃
 河村祥吾 宮崎眞音 森海斗 木下拓洋
 村橋伊織 秋元湊太郎 北島大翔 石原真美
 今村有周 松本晟 石川美来 飯島理子
 小原陽陽 宮坂奏子 守田ゆめ 清水莉瑚
 牟田瑚子 酒井彩 市村菜々美 池田涼

秋山伊織 辻田その 設楽千春 村田麗心
 鈴石芽依 三井翼 西森ゆずな 山口康介
 常森春名 林信吾 伊集院陽向 澤ゆりあ
 山本陽斗 望月拓誠 江原万 小針空
 飯島理乃 佐藤鈴乃 江原幸 小針空
 野井風太 東向姫奈 山本ひなの 佐々木太陽
 平野幸 服部花音 神田夏明 春日明莉
 園田匠 西山友里愛 小川孝太郎 望月凜
 大木茉帆 小幡一真 秦碧依 稲田嘉輝
 長谷川優 上田悠雅 源原麻史 亀井証記
 杉田愛菜 八木南 宮崎樹 井勝うた
 山岡結菜 山田優海 田夏葵 花屋佑樹
 伊礼莉奈 酒井優美 木戸悠輝 青木花
 後藤稜太郎 山本一太 井上蒼史 手島悠太
 田中柚羽 田中虎徹 本島初夏 長尾匠悟
 原傑 大塚彩奈 本島初夏 長尾匠悟
 山本はな 澤井唯 松永穂夏 榎原凜
 高橋クマヤ 五辺真緒 北澤鉄斗 柳田有美
 岡崎泉奈 山本美真 遠藤美羽 柳田舞美
 白石環 坂本裕祐 岡村拓海 杵渕秀星
 伊藤日菜 松岡葵 稲森太祐 杵渕秀美
 武藤民 沢登翔太 染川もこ 高橋賢
 阿部暁子 高橋愛子 田上由梨奈 萩原零
 糸井大翔 杉本明莉 国兼明珠 森下潤
 倉科茉莉 吉田真悠 吉田真穂子 齋藤陽
 河原林希愛 松林夏楓 是安雄太 福満和真
 五十嵐龍希 山崎紗永 足立武丈 大久保芹梨
 服部蒼大 福島慶介 岡本諭秋 小柴大輝
 中島玲佳 坪田莉子 金子幸大朗 秋山旺介
 佐藤隼弥 萩原柚名 肝付真李 塩崎海翔
 林彩葉 北川夏帆 林佳輝 乾智毅
 田中皓 佐藤美詩 平澤陽玖 幸田陽菜乃
 北林晃人 鎌谷柚乃 小椋雄仁 森遠太
 坂口修人 雑賀仁子 高本慈英 仲田琴音
 重田真里 福地志勇 伊藤香葉 久保田翔
 西村大和 木村洵心 松永連太郎 大竹紅樹
 金田望幸 莊日葵 リード花羅 杉内佑衣子
 小林紀朝 増田悠花 桑原杏奈 八尋麦太
 影近瑠奈 坂本瑠奈 佐々木紗希 土肥叶葉

初宮詣芳名お詫ごと訂正
 先の初宮詣芳名中、石松様のお名前を誤記
 しておりました。謹んでお詫び申し上げます。
 再度掲載させて頂きます。

奉祝 天皇陛下御即位二十年
大宮八幡祭り (秋の大祭) 9月12日～16日

氏子奉幣祭 (14日午前10時)・例大祭〔献幣使参向〕(15日午前10時)



神社本庁より献幣使参向



献幣使参向、祭詞奏上



佼成雅楽会、舞楽を奉奏



氏子幣を奉じて



奉幣使、氏子祈願詞奏上



賑々しく直会の開宴

第二十三回 神輿合同宮入り

8基の神輿の参入で、
熱気と興奮に包まれます



境内では、連日神賑行事が奉納されます

- 氏子町会神幸所**
- 大宮地区
 - (宮元会神幸所)
 - 大宮一丁目町会神幸所
 - 方南地区
 - 峰睦会神幸所
 - (峯栄会神幸所)
 - 新栄若睦会神幸所
 - 泉南睦神幸所
 - 方南西神幸所
 - 方南東神幸所 (上)
 - 方南東神幸所 (下)
 - 和田地区
 - 和田睦会神幸所
 - 和田敬神会神幸所
 - 和田仲組神幸所
 - 和田南神幸所
 - 和田東神幸所
 - 松ノ木地区
 - 松ノ木睦会神幸所

園児民謡踊り



小笠原流三九手挟式



方南エイサー踊り



野点茶会



第30回小笠原流献華展



露店も賑やかに



大 宮 第82号
 平成 20 年 大宮八幡祭り号
 平成 2 0 年 9 月 1 日発行
大宮八幡宮社務所
 〒 168-8570
 東京都杉並区大宮 2-3-1
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp